

知事コメント

(東海北陸自動車道 城端SAスマートIC(仮称)の事業化決定について)

令和元年 9月27日

富山県知事 石井隆一

本日、国土交通省から今年度のスマートICの新規事業化箇所が発表され、東海北陸自動車道の城端SAスマートIC(仮称)の事業化が決定した。

スマートICは、高速道路の利便性の向上が図られ、地域の活性化や広域観光の振興等に大きく寄与することから、県としても、これまでスマートICの設置に向け、積極的に取り組んできており、この度、城端SAスマートIC(仮称)が新規に事業化されたことは、大変喜ばしく思っている。

お力添えをいただいた国会議員や県議会議員の皆様をはじめ、関係各位に心からお礼申し上げたい。

城端SAスマートIC(仮称)については、今後、中日本高速道路株式会社、南砺市などにおいて、供用に向けて事業が進められることとなるが、県としては、アクセス道路となる県道の整備はもとより、円滑に事業が進捗するよう、引き続き、関係機関と連携し、協力してまいりたい。

今回の事業化決定は、先般の東海北陸自動車道の南砺スマートIC～飛騨清見IC間の4車線化が、「高速道路における安全・安心基本計画」で優先整備区間に選定されたこととあわせ、南砺市はもとより、県西部ひいては、本県の発展につながる大きなステップとなるものと考えている。

引き続き、岐阜県や南砺市をはじめとした沿線市町村等と連携を強め、本県の骨格をなす東海北陸自動車道の整備に、これまで以上に取組みを強化してまいりたい。

(担当：道路課 TEL：076-444-3319)